

ピリオドスコア・戦評 決勝リーグ その2

2014/6/22

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total	Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
A1	女 市立柏 昭和学院	6	13	8	11		38	B1	女 千葉英和 習志野	11	17	11	18		57
		24	30	26	17		97			11	15	27	11		64
<p>昭和学院は、マンツーマンディフェンス。市立柏は、ゾーンディフェンスでスタート。両チームとも、開始2分間で無得点だったが、昭和学院は#12のジャンプシュートからはじまり、#12のインサイドを中心に点が入りはじめる。対する、市立柏は、昭和学院の激しいディフェンスに苦しみ、点数を伸ばすことができない。第2Q、昭和学院が大量リードし、前半終了。そのまま大きな展開もなく試合終了。昭和学院が97-38と圧勝した。2連勝の昭和学院はインターハイ出場を決めた。2連敗の市立柏は後がなくなり、次の試合に全てを賭ける。</p>								<p>お互い静かな立ち上がりから、両チームともに、ハーフコートマンツーマンディフェンスで試合開始。先制点は習志野#4の3P。英和は、緊張のせい、なかなか点をとることができない。習志野は#4を中心に得点を重ねていく。対する英和は、#14のレイアップを中心に点を取り、お互い拮抗したまま、前半終了。第3Qの開始とともに習志野#6が3Pをきめつけて点をとっていく。英和も負けじと攻めるが激しい習志野のDFに囲まれ、なかなか点がとれない。さらに、習志野#4が3Pを決め14点差となる。第4Qで、英和がゾーンプレスに成功し、14点差から、4点差まで追いつめ、英和#5がシュートを決め2点差に。しかし習志野#6が連続3Pを決め勝負あり。64-57で習志野が勝利。インターハイに前進した。</p>							
A2	男 柏日体 市立船橋	5	11	21	22		59	B2	男 幕張総合 東海大浦安	22	26	26	19		93
		24	25	26	18		93			16	10	12	10		48
<p>両チーム、ハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。市立船橋の激しいディフェンスで柏日体の点数が伸びず1Qから差がついた。2Qになり市立船橋#9の3Pが連続で入り、さらに勢いづく。試合にはそのまま市立船橋が16-49の大量リードで前半終了。後半、柏日体のセンタープレーを中心に得点が入るようになり、流れが変わるがリバウンドが取れず、差が縮まらない。市立船橋はさらに点差を広げ59-92で圧勝した。</p>								<p>スタートはどちらもマンツーマンディフェンス。幕張総合#10のドライブが決まる。中にディフェンスが集まったところを外に合セドルシュートが良く決まった。東海大浦安は#14、#15のカットインで対抗する。2Q、幕張は1対1と#6、#7の合わせを決めると、浦安はなかなかシュートが決まらず点差が開く。3Qに入りメンバーが代わる。浦安は外で回していたパスを中に切れ込ませるようになるが点につながらない。4Q浦安がディフェンスを2-3のゾーンにするが、幕張総合#16の3Pが連続で決まり点差が開き、その流れのまま試合が終了した。</p>							
A3	女 昭和学院 千葉英和	29	19	30	19		97	B3	女 習志野 市立柏	17	19	24	14		74
		14	18	11	14		57			18	14	13	26		71
<p>両チームともマンツーマンディフェンスで始まる。昭和学院は#15のジャンプシュートから始まり、#12を中心に#8、#15のゴール下のシュートがはいるようになる。対する千葉英和は開始6分間は、一歩も譲らず点の取り合いをしていたが、1Qの後半、点差が出てきた。両チームともいいスタートで始まり、前半を終えた。メンバーチェンジ後、昭和学院#13の3Pを中心にゴール下のシュートやジャンプシュートが入り始め、リードを広げる。千葉英和は点が伸びず、相手のディフェンスに苦しむ。その後、大きな展開もなく、そのまま試合終了。点差がひらくも、千葉英和は諦めず、ねばりつづけた。</p>								<p>緊迫した雰囲気の中、先制点習志野で試合開始。その後すぐに市立柏の3P、オフェンスリバウンドで市立柏の連続得点。両チームともに3Pやミドルシュートで、点を重ねるがお互い一歩も譲らず前半終了。第3Q後半から一転。試合の流れを変えたのは、習志野#6、#8の3Pと#7のリバウンドで一気に点差は、15点となった。第4Qから、市立柏の猛反撃が始まり、激しいディフェンスや、3P、バスケットカウント、速攻で1点差まで追いつめたが逆転できず。最後まで勝負の行方が分からなかったが、習志野の逆速攻で勝負あり。71-74で習志野勝利。決勝リーグ2位でインターハイ出場を決めた。</p>							
A4	男 市立船橋 幕張総合	22	21	23	22		88	B4	男 東海大浦安 柏日体	17	17	14	22		70
		15	13	11	14		53			20	20	20	21		81
<p>両チームともハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート、市立船橋#4のバスケットカウントプレーなどで得点を重ね徐々に点差を広げていった。2Q幕張総合も速攻で挽回するが、市立船橋は3Pシュートが良く決まり、チャージングを取るなど堅いディフェンスで主導権を握った。後半になっても市立船橋の勢いは止まらず。幕張総合も頑張ったが、市立船橋が昨年に続き2年連続の優勝を果たした。</p>								<p>柏日体#5のインサイドプレー、東海大浦安#12の3Pシュートを中心に互いに得点を重ねていくが、柏日体が一歩先行する。2Q、東海#5の連続得点とバスケットカウントで残り4分で29-28と逆転。柏日体はその後、ディフェンスを頑張り再逆転。リードを広げて前半終了。3Q、東海は柏日体の激しいディフェンスに対し攻めあぐみ、思うように得点が伸びず苦しい展開。柏日体は#4のバスケットカウント、#7#8の3Pシュートで突き放す。4Qは点の取り合いになったが、柏日体は落ち着いたゲーム運びで逃げ切り、2年連続インターハイ出場を果たした。</p>							